



一村一志

「夢の芽生える文化」創造のプラットホーム
「八雲志人館」は、将来に向けて持続可能な
地域を創出することをめざして活動します。

水の偉人 八田與一



イラスト: 寺戸良信

2011年（平成23年）3月の東日本大震災に対して、台湾から世界最多の200億円以上の義援金が寄せられました。戦前、京都大学で学んだ経歴のある李登輝・元総統は「日本の皆様の不安や焦り、悲しみなどを思い、私は刃物で切り裂かれるような心の痛みを感じている」と、日本語でメッセージを寄せました。

その台湾で「父」「恩人」と呼ばれ、敬愛されている日本人がいます。八田與一。1895年（明治28年）から1945年（昭和20年）までの50年間、日本の植民地であった歴史のある台湾で、日本人として唯一、銅像が建てられている人物です。

人がいます。八田與一。1895年（明治28年）から1945年（昭和20年）までの50年間、日本の植民地であった歴史のある台湾で、日本人として唯一、銅像が建てられている人物です。

ダム完成後の1931年（昭和6年）、この工事に携わった人々の拠金によって八田の銅像が建立されました。作業ズボンをはき、地面に腰を下ろして現場を見つめ、黙考する八田の姿を表しています。常に現場に立ち、作業員一人ひとりの安全への気配りを怠らなかつたという八田の人柄をしのばせます。

戦時中の金属回収令の時代や、戦後の中華民国の蒋介石時代に日本に関係のある建物や碑が破壊された時には、地元の人々によつて隠され、守り通されたといいます。そして、ようやく1981年（昭和56年）になつて、元の場所に設置されました。

大平野は、二十世紀のある時期までは、不毛の大地だつた。理由は、「渓」とよばれる河川の数が少なすぎることにあつた

（司馬遼太郎『街道をゆく四十日』より）。

八田は、1886年（明治19年）金沢に生まれ、東京帝國大學工学部土木科で学んだ後、1910年（明治43年）、台湾總督府に土木課技手として赴任。

上下水道整備、発電・灌漑事業に携わります。そして、1920年（大正9年）から、台湾南部の嘉南平野において一大農業水利事業に着手します。

八田は、嘉義市から台南市までの野は、嘉南平野とよばれる。まさにひろびろとしていて、山が霧でかくれている日など、一望の平野に見え、大陸にきたかと思わせるほどである。が、この

利構造全体の名を「嘉南大圳（かなんたいしゅう）」（※圳とは、耕作地にある溝の意味）といい、司馬遼太郎は「水の長城」とたとえています。

ダム完成後の1931年（昭和6年）、この工事に携わった人々の拠金によって八田の銅像が建立されました。作業ズボンをはき、地面に腰を下ろして現場を見つめ、黙考する八田の姿を表しています。常に現場に立ち、作業員一人ひとりの安全への気配りを怠らなかつたといいう八田の人柄をしのばせます。

戦時中の金属回収令の時代や、戦後の中華民国の蒋介石時代に日本に関係のある建物や碑が破壊された時には、地元の人々によつて隠され、守り通されたといいます。そして、ようやく1981年（昭和56年）になつて、元の場所に設置されました。

大平野は、二十世紀のある時期までは、不毛の大地だつた。理由は、「渓」とよばれる河川の数が少なすぎることにあつた

（司馬遼太郎『街道をゆく四十日』より）。

八田は、烏山頭ダムとよばれる。まさにひろびろとしていて、山が霧でかくれている日など、一望の平野に見え、大陸にきたかと思わせるほどである。が、この

10年をかけて完成されたこの水

ダム完成後の1931年（昭和6年）、この工事に携わった人々の拠金によって八田の銅像が建立されました。作業ズボンをはき、地面に腰を下ろして現場を見つめ、黙考する八田の姿を表しています。常に現場に立ち、作業員一人ひとりの安全への気配りを怠らなかつたといいう八田の人柄をしのばせます。